

【平成30年度事業報告】

1 企画委員会、役員会、第25回総会、講演会の開催

1) 企画委員会の開催（企画委員他11名出席）

日時：平成30年6月6日（水）

場所：仙台ビジネスホテル1階会議室（仙台市）

第25回総会の議案（①平成29年度事業報告、②平成29年度収支決算報告、③平成30年度事業計画（案）、④平成30年度収支予算（案）、⑤会員の状況について、⑥役員を選任について、及び、平成30年度事業の具体的な考え方（セミナー、ニュース、講演会等）・『知』の集積関係事項、並びに、産学連携支援、研究会の運営等に係る事項について検討を行った。

2) 役員会の開催（役員、事務局等8名出席）

日時：平成30年6月28日（木）

場所：TKPガーデンシティ仙台 カンファレンス21E（仙台市）

総会に先立ち、①第25回総会の議案、②その他研究会の運営等に係る事項について協議を行い、総会提出議案が了承された。

3) 第25回総会（出席者32名、委任状27名 計59名）

役員会に引き続き、第25回総会を開催した。

<議事>

- ① 平成29年度事業報告
- ② 平成29年度収支決算報告
- ③ 平成30年度事業計画（案）
- ④ 平成30年度収支予算（案）
- ⑤ 会員の状況について
- ⑥ 役員改選について
- ⑦ その他

審議の結果、提出した議案はすべて承認された。

4) 記念講演会（45名出席）

総会に引き続き、記念講演会を行った。

NPO法人ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会の前理事長・現理事である武藤一夫氏と東北地域農林水産・食品ハイテク研究会の門間事務局長が講演を行った。

第1講演者の武藤氏からは、「知恵と工夫と住民力で中山間地域農業の未来を切り開くーNPO法人ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会の挑戦ー」というテーマで、住民主体の地域づくりが成功した要因と、今後の新たな取り組みの方向について報告が行われた。成功要因の基本は、決して背伸びをせず、自らが必要だと思う・やりたいと思う活動を行う事、地域の宝を活かし次世代に繋ぐこと、外部の人々を積極的に地域に受け容れること、そして外に対して開かれた活動をすることが重要であることが強調された。

第2講演者の門間事務局長からは、「競争的外部研究資金を獲得するためにはーイノベーション創出強化研究推進事業への対応を中心にー」というテーマで、今後の国全体

としての競争的研究資金の重要テーマ、農林水産省の『「知」の集積と活用の場』の取り組みが目指すもの、そしてイノベーション創出強化研究推進事業の内容と応募・採択に向けての申請書の書き方、面接対応の仕方について話題提供が行われた。

2 産学連携支援事業

1) 技術交流展示会への参加

農林水産省の主催による「アグリビジネス創出フェア2018」（東京ビッグサイト 西1ホール）において、委託事業コンソーシアムとして出展し、産学連携支援事業における支援先の研究成果等を展示した。当研究会では、農研機構東北農業研究センター、同果樹茶業研究部門リンゴ研究領域、岩手大学滝沢農場、岩手県農業研究センター県北農業研究所、紅果園（岩手県奥州市）の協力により、ポスター・現物（リンゴの各品種等）の展示を行った。

また、同フェアのコーディネーターとして、当研究会のコーディネーター1名が相談対応を行った。

2) セミナー等の開催

異なる分野の革新的な発想や先端技術を活用して、東北農業の技術革新や農業ビジネスに取り組むための機会を農林水産・食品産業関係者に提供する場とするためのセミナー等を開催した。

セミナーの開催回数は、11回で参加者総数は471人であった。開催場所は岩手県7か所、宮城県2か所、山形県1か所、福島県1か所で、東北ハイテク研が所在する岩手県が中心であったが、平成30年度は山形県、福島県で開催することができた。

(1) 東北ハイテク研究会 講演会

日時：平成30年6月28日

会場：TKPガーデンシティ仙台

次第：①知恵と工夫と住民力で中山間地域農業の未来を切り開く
－NPO法人ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会の挑戦－
同協議会前理事長、現理事 武藤 一夫 氏

②競争的外部研究資金を獲得するためには
－イノベーション創出強化研究推進事業への対応を中心に－
東北ハイテク研究会 事務局長 門間 敏幸

参加者：45名

(2) 地元食の研究会 現地視察会「麦秋」を体感しよう！ もち性小麦「もち姫」の圃場見学

日時：平成30年6月30日

会場：岩手県紫波町の圃場他

次第：①岩手の小麦品種のいろいろ

東北ハイテク研究会 中核コーディネーター 星野 次汪

②紫波町のパン用小麦「ゆきちから」、「銀河のちから」の取り組み
JAいわて中央営農販売部指導統括課 副調査役 村上 博範 氏

③「もち小麦：もち姫」の取り組み

JA岩手中央小麦生産部会 畠山 芳男 氏

④ひつつみ作り体験

紫波町農家レストラン「アグリ茶屋」細川 栄子さん指導

⑤白石食品工業の製パン工場見学（盛岡市黒川） 6名参加
参加者：23名

(3) 薬草勉強会：岩手町の薬草栽培研修・現地視察

日時：平成30年7月24日

会場：岩手県岩手町の生産圃場

次第：①薬草生産を取り巻く環境と研究の現状

東北ハイテク研究会 中核コーディネーター 星野 次汪

②岩手町での薬草栽培の現状とこれから

農事組合法人 岩手薬草生産組合 総務部長 伊藤 浩史 氏

③薬草栽培における雑草対策のポイント

岩手大学農学部嘱託教授 佐川 了 氏

参加者：28名

(4) 平成30年度スモール・スマート農業への挑戦ースマホでできる合意形成支援
・意向調査・マーケティングリサーチ

日時：平成30年8月30日

会場：岩手大学農学部会議室

次第：意思決定支援ソフト「BuMoc」開発のねらいと活用方法について

東京農業大学 国際バイオビジネス学科准教授 朴 寿永 氏

参加者：20名

(5) 東北ハイテク研セミナー「競争的外部研究資金を獲得するためにはーイノベーション創出強化研究推進事業への対応を中心にー」

日時：平成30年11月5日

会場：山形県農業総合センター会議室（山形市）

次第：競争的外部研究資金を獲得するためにはーイノベーション創出強化研究推進事業への対応を中心にー

東北ハイテク研究会 事務局長 門間 敏幸

参加者：50名

(6) イチゴの利用拡大セミナーー福島県における今後の展望ー

日時：平成30年12月5日

会場：福島県農業総合センター大会議室（福島県郡山市）

次第：①イチゴの品種開発の現状

農研機構 東北農業研究センター 畑作園芸研究領域

主任研究員 本城 正憲 氏

②マーケティングの視点からみた今後のイチゴの消費動向

東京農業大学 国際食料情報学部 准教授 半杭 真一 氏

③福島県のオリジナル品種育成の方向

福島県農業総合センター 作物園芸部 研究員 秋葉 未歩 氏

参加者：100名

(7) 平成30年度 競争的資金への応募に向けた個別相談会開催（第1回）

日時：平成30年12月18日

会場：東北地域農林水産・食品ハイテク研究会事務室（盛岡市 東北農研内）

次第：競争的資金への応募に向けた個別相談会

参加機関：大学1・公設試2・民間1

- (8) 平成30年度 産学官連携セミナー「農林水産技術会議事務局競争的資金等に係る事業・公募説明会」及び東北ハイテク研究会による講演、個別相談会
 日時：平成31年1月23日
 会場：TKPガーデンシティPREMIUM仙台西口 会議室 (仙台市)
 次第：①「イノベーション創出強化研究推進事業」、「戦略的プロジェクト研究推進事業」、「スマート農業加速化実証プロジェクト」に係る事業の内容、応募説明
 農林水産技術会議事務局及び農業・食品産業技術総合研究機構の担当者
 ②イノベーション創出強化研究推進事業への応募のための課題設定、参画機関の構成、成果の出口戦略について
 岩手大学准教授 下野 裕之 氏
 ③競争的研究資金応募に関わる個別相談会
 東北地域農林水産・食品ハイテク研究会 各コーディネーター
 参加者：61名
- (9) 東北ハイテク研経営者セミナー「酪農経営の付加価値化ー国産ナチュラルチーズの魅力ー」
 日時：平成31年1月28日
 会場：いわて県民情報交流センター（アイーナ） (盛岡市)
 次第：①本場に近くて遠い、三谷のチーズ
 三谷牧場 三谷 雅子 氏
 ②魅力的な地域ブランドチーズの創出にむけたアプローチ
 農研機構 畜産研究部門 小林 美穂 氏
 ③チーズの機能性と健康効果
 東北大学名誉教授 齋藤 忠夫 氏
 参加者：51名
- (10) 東北ハイテク研セミナー「八幡平市の農業を拓く新品種および新技術の紹介」
 日時：平成31年2月28日
 会場：八幡平市立松尾コミュニティセンター会議室（岩手県八幡平市）
 次第：①ダイズ品種「貴まる」の特徴と加工品の紹介
 岩手大学農学部嘱託教授 佐川 了 氏
 岩手大学農学部技術室技術専門職員 武田 伸也 氏
 ②作業分散・規模拡大のための超省力・水稻の初冬直播き栽培
 岩手大学農学部准教授 下野 裕之 氏
 ③東北農業研究センターのおすすめ品種 ～良食味の業務用米品種「ゆみあずさ」「ちほみのり」、豆腐加工適性の高いダイズ「シュウリュウ」、倒伏に強く香り豊かなソバ「にじゆたか」「夏吉」
 農研機構 東北農業研究センター 産学連携室長 渡辺 満 氏
 ④岩手県で面積拡大中！春まきタマネギ栽培
 岩手県農業研究センター県北農業研究所主査専門研究員 横田 啓 氏
 ⑤North Line40° +8の活動 (高アミロース米の生産と加工)
 株式会社ノースライン40プラス8 代表取締役 工藤 光栄 氏
 ⑥試食及び意見交換会
 参加者：51名

(11) 東北ハイテク研セミナー「農業ビジネスの多様な展開を支える支援資金について学ぶ」

日時：平成31年3月19日

会場：岩手県民情報交流センター（アイーナ）（盛岡市）

次第：①いわぎん農業法人ファンドについて

いわぎん事業創造キャピタル株式会社

代表取締役社長 稲垣 秀悦 氏

②いわて希望応援ファンドの概要

公益財団法人いわて産業振興センター

農商工連携推進員 工藤 伸一 氏

③試食及び意見交換会

参加者：36名

3) 産学連携支援事業

(1) ニーズの収集・把握

農林水産省産学連携支援コーディネーター等による訪問・面談・問合せ対応等により実施。具体的には、①生産者や民間企業へ訪問等を行い、技術的課題・研究開発ニーズを収集・把握、②地方農政局、自治体、産学連携支援機関へ訪問等を行い、地域の技術的課題・研究開発ニーズを収集・把握、③必要に応じて、他機関が開催するセミナー、展示会等への参加等を行った。

具体的には、民間企業等に対する訪問活動131件、面談対応33件、問合せ対応63件、合計227件を実施し、産学連携推進のための技術相談、競争的資金への申請等を支援した。

・訪問、面談、メール・電話対応の件数の推移

活動形態	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
訪問	8	5	16	13	19	8	20	11	5	5	13	8	131
面談	0	3	1	3	2	0	1	7	4	10	1	1	33
メール・電話	2	12	2	6	1	11	5	2	2	17	3	0	63

・訪問、面談、メール・電話対応の機関種別実績

活動形態	民間		大学		国研・独法		公設試		産学機関		生産者団体	行政機関		その他		計	
		異分野		異分野		異分野		異分野		異分野			異分野		異分野		異分野
訪問	16	3	48	14	1	0	10	0	0	0	35	7	0	14	0	131	17
面談	6	0	7	1	3	0	7	0	0	0	0	7	0	3	1	33	2
メール・電話	6	0	9	1	20	0	6	0	0	0	8	7	0	7	0	63	1

(2) マッチングの支援

マッチングは、主としてCDによる生産者・企業・研究機関への訪問とセミナー開催＋試食会という形で行う。これまで、東北農研が育成したもち小麦品種「もち姫」、岩手大学が育成した大豆品種「貴まる」、高アミロース米については、企業へ紹介を行い商品化につなげている。

(3) 研究資金等の取得支援

農林水産省等の競争的研究資金の応募予定者に対し、競争的研究資金の応募に向

けた研究計画書や提案書の作成支援、ブラッシュアップ等を図るため、個別相談会の開催やセミナー等終了後の個別相談を実施し、コーディネーター等から応募予定者に対し指導・助言を行った。

平成30年度は「イノベーション創出強化研究推進事業」への応募10件(採択4件)、スマート農業加速化実証事業3件(採択1件)、戦略的プロジェクト研究推進事業1件(採択1件)、いわて農商工ファンド事業1件(採択1件)、研究開発事業化育成資金事業(いわて産学連携推進協議会)1件(採択1件)、いわて戦略的研究開発推進事業1件(不採択)等の応募支援を行った。

また、不採択になった課題については、不採択理由の解析・対策の明確化・再チャレンジへの支援を行った。

(4) 事業化・商品化の支援

コーディネーターによる民間企業・現場等のニーズを収集し、試験研究機関等に紹介しマッチングを図るとともに、必要に応じセミナー等を開催し事業化・商品化のためのマッチングの機会を設けている。

研究開発機関(当研究会会員)が開発した「モチ性コムギ」を用いた商品化の相談があり、JA、製パン企業、県普及センター等の関係者で緩やかな協議体を立ち上げ、種子供給体制の確立、栽培指導、商品開発に向け支援を行い、その後の継続的な活動を生みだした。

また、大学で育成された大豆を使用した商品化支援について、大学、行政、生産者等関係者による勉強会や試食会を開催し、商品化に至った。その他にも、高アミロース米の加工食品の試作などの支援を行っている。

(5) 産学連携に関する連携体制の強化

『「知」の集積と活用の場』産学連携協議会の研究開発プラットフォーム設立・既存プラットホームへの参加の支援等

平成28年度に東北大学で採択となっている研究開発プラットフォームと連携協定書を締結しており、関係者による会議等を通じニーズの収集、要望等に対して連携強化を図っている。東北地域は、その他の地域と比較してこれまで、『「知」の集積と活用の場』産学連携協議会の研究開発プラットフォームの形成は2件と少なかったが、平成30年度から始まる「イノベーション創出強化研究推進事業」についてのPRと応募相談機能を強化したため、「「東北農業のイノベーション技術創造」研究開発プラットフォーム(農研機構東北農業研究センター)」と「ALSVベクター技術を活用した果樹・野菜・花卉類のスマート育種研究開発プラットフォーム(岩手大学)」「先端技術活用による次世代型農林水産・食品産業創出プラットフォーム」の3件が設立された。

今後も積極的に研究開発プラットホームの設立を支援するとともに、研究コンソーシアムの設立と競争的研究資金事業への応募を支援していく。

(6) 産学連携に関する各種支援制度や支援機関の紹介・活用支援

JATAFFから提供された競争的資金に係る公募情報や研究会主催のセミナー、他機関から情報提供を受けた研究情報・セミナーについて、ホームページ、メール等により会員並びに大学、東北地域公設試、民間企業等へ情報を提供した。

また、セミナー等の機会を利用し、情報提供や参加者同士の交流に積極的に取り組み連携支援を図った。

(7) 東北地域コーディネーター会議の開催

日 時：平成30年3月19日(火)

場 所：岩手県民情報交流センター（アイーナ）（盛岡市）

参加者：17名（コーディネーター12名、東北農研4名、事務局1名）

始めに事務局から、①平成30年度活動報告、②平成31年度の活動計画・予算説明、を行い承認を得た。

その後、今後のコーディネーター活動のあり方、産学連携への対応等について意見交換を行った。